

# 第 1 1 回総務常任委員会会議記録

開 閉 会 日 時	平成 2 7 年 2 月 1 9 日 (木曜) 午前 9 時 3 0 分 開会												
	休憩 10:35-10:45 11:52-13:15 13:31-13:32 13:36-13:38												
	14:14-14:25 14:53-14:54												
	午後 2 時 5 3 分 閉会												
会議場所	役場 3 階 第 1 委員会室												
出席委員 氏 名	委員長 藤森善一郎	委員 中野 武彦	議長 広瀬 重雄										
	副委員長 青木 定之												
	委員 梅津 伸子												
	委員 西尾 一則												
欠席委員 氏 名													
説明等に 出席した 者の氏名	総務課長	紺野 裕	納税係長	杉山 真理子									
	総務係長	江崎 健一	資産税係長	久保 禎巳									
	地域安全係長	齋藤 和也	学校教育課長	松浦 智幸									
	地域安全係主査	上田 茂	課長補佐	坂口 勝己									
	契約管財係長	中島 広貴	給食センター長	杉山ゆかり									
	企画財政課長	佐野 寿行	学校教育係長	高瀬 義則									
	課長補佐	石田 哲	社会教育課長	木村 淳彦									
	広報広聴係長	西田 昌樹	社会教育係長	大橋 毅									
	財政係主任	大石 秀人	スポーツ振興係長	土田 雅敏									
	税務課長	柴田 真二	社会教育係主事	福地 克哉									
	税務課参事	仲野 裕司											
事務局職員	事務局長 西科 純	次長 剣持和裕											
<p>1 開 会</p> <p>委員長が開会を告げ、事務局から本日の委員会の日程を説明し、調査を行う。</p> <p>2 議 件 (1) 調査事項</p> <p>ア 新年度主要事業について</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">① 総務課</td> <td style="border: 1px solid black; text-align: center;">資料 1</td> </tr> <tr> <td>② 企画財政課</td> <td style="border: 1px solid black; text-align: center;">資料 2</td> </tr> <tr> <td>③ 税務課</td> <td style="border: 1px solid black; text-align: center;">資料 3</td> </tr> <tr> <td>④ 学校教育課</td> <td style="border: 1px solid black; text-align: center;">資料 4</td> </tr> <tr> <td>⑤ 社会教育課</td> <td style="border: 1px solid black; text-align: center;">資料 5</td> </tr> </table> <p>3 その他</p> <p>(1) 次回委員会の開催日程について</p> <p>(2) その他</p>				① 総務課	資料 1	② 企画財政課	資料 2	③ 税務課	資料 3	④ 学校教育課	資料 4	⑤ 社会教育課	資料 5
① 総務課	資料 1												
② 企画財政課	資料 2												
③ 税務課	資料 3												
④ 学校教育課	資料 4												
⑤ 社会教育課	資料 5												

## 2 議 件 (1) 調査事項 ア 新年度主要事業について

### 総務課

- ・総務課長から説明後、質疑を行う。
- ・中野委員： 文書質問に対して、慎重に検討するとの回答であったが、導入に踏み切った理由は。
- ・総務課長： 現在、管内で13市町村が導入し、町をPRできるということで踏み切った。
- ・中野委員： メリットについては。
- ・総務課長： 税の控除、町民が納税しても特典制度の対象にはならない。
- ・中野委員： 制度が変わって、納税しやすくなったと考える。寄付金の金額設定の根拠は。
- ・総務課長： 他自治体を参考にした。
- ・中野委員： 特典の商品は様々あると思うが、知恵を絞ってと考えるがインパクトの強いものを考えては。
- ・総務課長： 観光物産協会に委ねている理由としては、多くの会員で構成され、商工業者やJAなども加わっており、協議しながら商品を決定することが可能であるからである。
- ・中野委員： 臨時職員の業務量等は。
- ・総務課長： 業務量が把握はできないことから、当初は臨時職員で対応し、軌道に乗ることでさらに正職員配置も視野に入れる必要は生じる。
- ・梅津委員： この事業の展望をどう考えているか。
- ・総務課長： 町としても勢力的に進めたい。
- ・梅津委員： 特典取扱いの窓口は、観光物産協会とされているが、会に属していなくても参加したい業者等はあるか。
- ・総務課長： 贈呈品の対象をどこまで考慮すればいいかということもあるが、まずは1本化を考えたもの。
- ・西尾委員： 観光物産協会に丸投げだと他市町村とあまり相違ない。どういうPRかは分からないが、有力な会社がある中で町が調整しなければならないのではないか。
- ・総務課長： それらの会社も観光物産協会に属している。他の自治体を参考としているのは事実である。
- ・西尾委員： ふるさと納税制度は、知恵比べである。丸投げ姿勢はいかがか。
- ・総務課長： PRは町が行っていく。商品は協会となる。改善すべきものは改善していく。

### 企画財政課

- ・梅津委員： 管理計画策定手順であるが、現在どこまで進んでいるか。
- ・企画財政課長： 財政的見地では公会計上の資産把握は終了している。実態把握はインフラ部分のコスト置換作業は随時行う。年次更新はできていない。外部委託から進める。

- ・梅津委員： 地域集会施設の老朽化を進めるのか、集約化を進めるのか。減らす方向性なのか。
- ・企画財政課長： 総合管理計画の中で進める。全体の流れからは、人口減から考えると税込減も起き、今の施設を今のカタチで残すことにはならない。
- ・梅津委員： 今後の高齢化進展やコミュニティ希薄を考えると、小規模で地域に集会施設をつくっていく考えはどうか。
- ・企画財政課長： これまでの議論と同様、現状の施設が必要か、維持していくかどうかは稼働率等をみなければならない。
- ・梅津委員： 将来人口は、増田レポートと関連はあるか。
- ・企画財政課長： 人口問題研究所の数値を考慮しているが、増田レポートとさして変わらない。それらを踏まえて、強みと弱みを考慮して進める。
- ・梅津委員： 地域を細かく分析していくのか。
- ・企画財政課長： 地域事情を様々な視点から分析し、独自の人口推計を行う。
- ・梅津委員： 役場庁舎建設基本計画策定計画に町民組織を想定しているか。
- ・企画財政課長： している。組織体制やスケジュールについては、今後整理する。
- ・梅津委員： 平成27年度中に、組織をつくり検討に入るという意味である。
- ・中野委員： 総合管理計画は広域化が必要と考えるが。
- ・企画財政課長： 指摘のとおりであるが、機能を残しながら統合化。意見をまとめながらではなく、行政案として固めて理解していただく考えである。
- ・中野委員： 幅広い方々が入り、議論する必要があるのではないか。
- ・企画財政課長： 早期に立ち上げて検討に入りたいとしたが、なるべく住民の声を反映させていきたい。
- ・西尾委員： 事務部局の職員282人から287人へと5人増える内訳は。
- ・総務課長： 産休等対応に2人、任期付採用（保健師）1人、再任用1人、業務量増1人である。
- ・青木委員： 出産に伴う休暇、休業を取得する職員の代替職員の採用で前倒しして採用とは。
- ・総務課長： 復帰後定数は増える。次年度退職する職員の補充を前倒しとする。
- ・梅津委員： 東日本大震災支援事業であるが、一時的な生活支援、児童生徒就学支援等は何人か。
- ・総務課長： 児童は平成26年度2人であったが、1人帰郷し、中学生1人が残っている。支援対象者は3世帯あったが、2世帯は公住、1世帯は民間住宅である。
- ・梅津委員： 専任交通指導員の具体的な業務は。
- ・総務課長： 路面凍結等の全てを把握できないが、確認できる範囲で対応している。
- ・中野委員： 代替交通指導員の勤務時間が増えている要因は。
- ・総務課長： 指導員の入院等により増えている。休暇は忌引き等もある。子どもがいる場合の休暇、体調不良により退職した方もいる。
- ・中野委員： 交通安全指導員は研修を終えているのか。
- ・総務課長： 年度当初警察から説明を受けるなど研修を行っている。

- ・梅津委員： 地域防災対策事業の親子で防災ピクニックであるが、非常時の食事体験でアレルギーのある子どもの対応は。
- ・総務課長： アルファ化米は3種類ある。白米があるのでアレルギーはない。自宅からのおかずも持参していただく。
- ・中野委員： ピクニックの時期、規模は。
- ・総務課長： 親子で30人、夏休みに学校体育館で行う。
- ・中野委員： 防災ボランティア教育は遅れている。このような機会を通じて、教育するべきと考えるが。
- ・全ての教育を行うのは無理である。内容については今後検討する。
- ・梅津委員： 2事業はどこかの自治体を参考にしたか。
- ・総務課長： ピクニックは川崎市、一日避難施設生活体験は帯広市を参考としている。

#### 税務課

- ・西尾委員： 税収入の見込み幅をみているか。
- ・税務課長： そのような幅はないが、法人町民税の想定が立てづらいことで変動がある。低く見積もることはない。
- ・中野委員： 農業所得の件であるが、平成25年度の実績よりも低く見積もっている。安定して円安になっているが、その影響は。
- ・税務課長： 円安と物価高による。

#### 学校教育課

- ・梅津委員： 撤去遊具の代替は。
- ・学校教育課長： 利用頻度や設置場所の調査から撤去とした。
- ・梅津委員： 遊具は子どもにとって大事である。遊具が1つ減ることによる影響は。
- ・学校教育課長： 遊具は、これだけではない。利用頻度、位置からみて撤去を考えている。今後の整備としては検討していく。
- ・梅津委員： 5Pの芽室町学校配膳室改修工事、学校教育衛生マニュアルで指導はあったのか。
- ・学校教育課長： 指導はない。
- ・梅津委員： 豊かな心を育む人づくり推進事業で学校がそれぞれの講師を選ぶことができるのか。
- ・学校教育課長： 学校裁量で講師決定する。
- ・中野委員： アクティブラーニングの取組は。
- ・学校教育課長： 現在はない。次期の学習指導要領などの検討の際に本格的になるのではないか。
- ・中野委員： 教育委員会が独自に積極的に取り組んでいく必要があるのではないか。
- ・学校教育課長： 国などを待たずに考えていきたい。

#### 社会教育課

- ・中野委員： どんぐりカレッジは男女関係ないか。

- ・社会教育課長： 関係ない。
- ・中野委員： 名称にひと工夫が必要ではないか。
- ・社会教育課長： 柏樹学園の前段であることからこうした名前となった。
- ・梅津委員： ゲートボール発祥の地めむろ高校生合宿事業の用途は。
- ・社会教育課長： 社会教育課で合宿面を担うものである。
- ・中野委員： 合宿に応募多数の場合は。
- ・社会教育課長： 補正予算対応となろう。
- ・中野委員： 発祥の地大会以外の時期への合宿対応は。
- ・社会教育課長： 普及活動の1つであり、その他の時期でも財政支援は別として対応する。
- ・中野委員： 総合体育館バイオマス発電設備の稼働については、大地震が起きた際に故障した場合はどうするか。
- ・スポーツ振興係長： 遠隔監視システムで対応するが、大阪で監視しているため異常時は近隣法人で対応する。
- ・梅津委員： どの程度で故障するか。
- ・社会教育課長： 極端な大震災時の正常稼働には懸念もある。
- ・梅津委員： 災害時の避難場所でもある施設として、不安はある。
- ・社会教育課長： 別棟で建設しているので懸念は少ないが、災害時の対応は想定しながら進める必要がある。
- ・梅津委員： どの程度まで懸念がないということは前もって確認が必要では。
- ・社会教育課長： 確認する。

### 3 その他

(1) 次回委員会の開催日程について

- ・3月3、5、16日の予定。2月23日に合同委員会。
- ・その他

傍聴者数	一般者	4名	報道関係者	1名	合計	4名
------	-----	----	-------	----	----	----

平成27年2月19日

総務常任委員会委員長 藤森 善一郎